



にいがた映画塾通信

第五号(九九冬)

編集・発行

にいがた映画塾

〒950-0086

新潟市花園2-3-2 飛鳥ビル1F

電話・ファクス

025-248-9088

新潟出身・村松監督も来場

「シンク」を特別上映

2月28日ウインド



「シンク」の1場面(「びあ」提供)

新潟市出身の新鋭・村松正浩監督の作品「シンク」が、二月二十八日(日)にいがた国際映画祭で特別上映される。新潟では初公開。当日は村松監督も「凱(がい)旋」、ティーチンを行う。

映画塾が同映画祭に「売り込み」、上映が実現した。

シンクは「テレパシーのような」不思議な力で結ばれた三人の若者が、「会話」を続けながらそれぞれの人生を送っていく物語。だれもが言葉にできないささやかな思い、小さな不安、切ない気持ちをデジタルビデオを駆使した独自の映像文法で表現している。次世代の映画形態を予感させる革新的な作品として一九九七年の「びあフィルム

村松正浩(むらまつ・まさひろ)一九七二年新潟市生まれ。高校卒業時に「2001年宇宙の旅」などのキューブリック作品に出会い本格的な

村松監督は今年の正月、ぶらりと映画塾事務所を訪れ、映画塾スタッフと酒を飲み交わしシンクへの熱い思いと新潟上映への期待を語っていた。今回、上映後の村松

映画志向が生まれる。東京造形大学の二一才の時にビデオカメラを手にして、身の回りを撮ったものの編集を始める。「シンク」ホームペー

第2金曜はインディーズの日

上映会 順調な滑り出し

昨年十二月から始まった月イチ上映会が順調な滑り出した。新潟市五十嵐にある会場の「Room No.2001」(Cafe Roots 改め)の地下は二十人も入ればいっぱいだが、そのアットホームな雰囲気好評で、毎回順調な動員を続けている。多くが映画塾関係者以外だ。

「CineCineBang!」(シネシネ・パンバン)というイベントタイトルで毎月第二金曜日夜八時から同所で行っている。十二月十一日は一期から三期までの映画塾の卒業作品、一月八日は石川浩之(3期)特集、二月十二日は告白ゲーム(更科ヒトシ監督1期)などのビデオ作品特集を行う。三月は十二日に大橋健一(3期)特集を行う。会場は新潟大西門の隣り。実行委員会では上映作品の募集も行っている。問い合わせは豊島が大橋へ。「2001」の連絡先は025-2635287。

ビデオライブラリー 現在40本

無料です 利用を!

にいがた映画塾事務局「事務局に来てぜひ利用に、「ビデオライブラリー」して下さい。寄贈作品を「い」と呼び掛けているののをご存じだろうか。

現在、会員の作品をはじめ寄贈作品など約四十本がコレクションされ、会員に無料貸し出しを行っている。

借り方はノートに記入するだけ。ライブラリー館長の大橋健一さんは

「事務局に来てぜひ利用に、「ビデオライブラリー」して下さい。寄贈作品を「い」と呼び掛けているののをご存じだろうか。」

PFFには 13作品応募

「ぴあフィルムフェスティバル(PFF)」の九九九年作品募集が十二月末締め切られた。映画塾からは第二期、三期の卒業作品六本を応募。会員からは事務局が把握している限り七本が応募された。「ぴあ」によると、全国から過去最高の九百十四本の応募があり、新潟県からは十四本だった。

会員作品七本の内訳は高橋しのぶさん、宮川直子さん、井上朗子さん、高橋美香さん、大橋健一さん、小池博子さん。井上さんは八ミリと一六ミリの二本を出品した。

予備審査の結果発表は四月下旬。その後最終審査をへて、七月にグランプリ作品などが東京で上映される。

このほか、ナシモトオオさんは「イメージフォラム」に、山田佳代さんは「ひろしま映像展」に応募している。

告知ばん

グループ展「接触」(CONTACTION) 神文哲(3期)ら有志四人が二月二十一日から二十八日まで新潟市本町の自由空間「蔵」で開催。写真、詩、短歌、俳句、イラスト、音楽などを展示。入場無料。問い合わせ090 4953 9932(神)まで。

事務局から

第3期ビデオ発売映画塾の第三期のみの作品を収めたビデオを会員向けに発売します。三期卒業生や、既に一期、二期のビデオをもっている人にお勧め! 料金一〇〇〇円(郵送の場合はプラス送料五〇〇円)。問い合わせは笹崎まで。住所変更は早めにご連絡をお願いします。

定例会報告

(要旨)

第2回(十一月十七日)約十五人が出席。

【決定】定例会中はその他の打ち合わせ、編集作業禁止 常備の鍵を一つ、朝早く用事がある人のために貸し出す鍵を一つ、計二個のスベアキーをつくる。前の日に鍵を取りに来てもらう。自転車一台が盗まれた。新谷君(3期)の自転車を持ってくる。ロングラフ、コピーは使用の際、ノートに必要事項を記入 掲

示板に貼る人は日付と名前を書くこと。【報告】入会用紙提出はわずか十三人。うち十人しか入金していない。厳しい状況は続く。団体設立時の残金は十五万四千九百円。出納帳と定例会議事録は事務局に常備。会員なら誰でも見られるようにする。

第3回(十二月二日)約十三人が出席。

【依頼】小鉢、ニケロガスコンロの寄付を。

第4回(十二月十五日)約二十人が出席。

【報告】映画塾口座残高は十五万六千六百六十八円。そのうち会費収入は十萬三千円、残りが繰り越し予算。会費納入通知をもらっても、まだ未納の人がいる。財政の危機的状況は続いている。十月、十一月の電話代が計二万六千八百五十八円。電話代がかかりすぎ。灯油代は一ヶ月約五千円かかることが分かった。【決定】電話を使つた人はペプシマン貯金箱に自己申告で、お金を入れる。講師らに年賀状を送るために予算支出二期、三期の卒業作品六本をPFFに出品する。出品料計一万二千円は、財

政事情は苦しいが予算支出。第5回(一月十二日)約二十人が出席。

【報告】事務所の鍵が一つ紛失している。駒形が核をテーマにした写真展を開く。スタッフ募集中。【要請】コピー用紙は損紙の裏を利用を。【決定】申込用紙が提出されている会員に連絡網をつくって連絡する。

第6回(一月十九日)約二十人が出席。

【報告】神のグループ展開催 梅田チヨ展 五十嵐が自作「来入」撮影。第7回(二月二日)約三十人が出席。

【報告】アートサポートズ梅田千代展、無事終了。四百五十人來場。有志が核問題写真展をやする。会場でいい場所を知っている方は駒形まで連絡を。長岡映画塾を九月以降やりたい。新潟とは少し違った内容で。(さらに詳しい報告は映画塾ホームページに掲載しています。事務局にある議事録ノートは会員ならだれでも閲覧できます。定例会の今後の日程は「NG」第四号の日程表を参照して下さい。問い合わせは矢部まで)

【編集スタッフ】星龍雄 【題字】宮川直子

せ090 2657 4
582(鈴木貴之)まで。

「NG」次回発行は五月中旬です。